



新年にあたって

一般社団法人藤野観光協会 代表理事 名久井孝昭

新たな年を健やかに過ごせることと思います。皆さま方におかれましては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行う中で、事業にご尽力されていることに心より敬意を表します。

さて、昨年中にはウィズコロナの時代に即した新しいスタイルのイベントが少しずつ復活し藤野も活気を取り戻しつつあります。

新たに迎えた令和5年は当協会が数年来実績を残している里山体験ツアー、移住・定住促進事業、観光案内所「ふじのね」運営等々を相模原市をはじめ各団体と連携して継続的に行い、「藤野」を情報発信し、更なる藤野の観光振興ならびに地域振興に全力を傾注していきます。

皆さま方のご多幸をお祈り申し上げますとともに、皆さま方の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

移住・定住促進事業も進めています!

最近いろいろなところで地方移住が話題になっていますが、藤野地区への移住希望者も少なくありません。ただ、移住はそう簡単なことではなく、まずは物件探しに苦労し、仮に移住先が決まってもいろいろな不安が付きまとうものかと思えます。地元で受け入れる立場にある皆さまにとって、移住者がどのような気持ちで藤野で暮らしているのかも気になることではないでしょうか。**そこで今回は名倉地区に2年ほど前に移住してきた高橋秋彦さんにお話を伺いました。**

藤野への移住を決断した直接のきっかけは子どもがシユタイナー学園に通学するのに便利なようにということでしたが、自分自身山形県の山合いの地域で生まれ育った経験からいつか自然豊かな環境で暮らしたいという思いもありました。実際に移住してみて地域の人たちがとてもやさしい、特に子どもたちにやさしいことが印象的でした。確かなコミュニケーションがあるということでしょうか。都会では希薄だったように感じます。藤野は不便な分、人らしい生活ができる所なのではないでしょうか。移住を希望している方には、藤野には面白い人が、生きる力の強い人がたくさんいる、自分次第でいくらでも楽しい生活ができる、と言いたいです。

ただ、職場が遠く、通勤には苦労しています。特に高尾から先、電車の本数が極めて少なくなり、長時間待たされるような時は正直、つらいです。それからイノシシなどの動物が出る可能性があって、夜歩くのがちょっと怖いというのも発想になかったことです。

自治会に入っていますが、地元の方といろいろな活動をしたり、夏祭りなど伝統的な行事に参加することも楽しみにしています。残念ながら今はコロナ禍で思うようにはできていませんが…。これからも藤野暮らしを楽しんでいきたいと思えます。



「藤野ライフを楽しむ高橋さん」

藤野への移住を考えている人がたくさんいます!
空き家、空き地の情報をおもちの方
ぜひ観光協会にご一報ください
TEL 042-684-9503(平日 8:30-17:00 受付)

藤野里山体験ツアー、学校教育の場としても!

コロナ禍が続く中ですが、藤野の里山暮らしをそのままに体験していただく里山体験ツアー、多くの方に参加していただいています。昨年は特に学校教育の一環としての利用が目立ちました。横浜国立大学付属鎌倉小学校は校外学習として、逗子市立池子小学校は林間学校として里山を体験していただきました。加えて都内のいくつかの学童クラブの参加もありました。里山体験ツアーは、普段自然からはかけ離れた暮らしをしがちな子どもたちにとってとても意義のある機会だと思っています。今後とも多くの子どもたちが藤野にやって来て楽しく過ごすことを願っています。

**日帰りで里山の暮らしを体験していただく
 里山体験ツアーの受入れを始めてみませんか**
関心おありの方、観光協会までご連絡ください
TEL 042-684-9503(平日 8:30-17:00 受付)



「鎌倉小の子どもたち」

「ふじのね」より

藤野観光案内所「ふじのね」では月替わりで地元在住のアーティストらの作品の展示・販売をしています。今後の予定は以下の通りです。駅にお出での際などに是非お立ち寄りください

- 2月 竹嶋玲「竹嶋玲 陶展」
- 3月 「大溪×藤野～日台交流企画展」
- 4月 副島微美子「白磁器展」
- 5月 塚本義之「マクラメと木工展」
- 6月 さとうますよ「ふじのじかん」(本と雑貨展)
- 7月 辻田明菜「やまのご製本店」



「竹嶋玲 陶展」

3月は特別企画として台湾桃園市大溪区のアーティストの作品を展示・販売する「大溪×藤野～日台交流企画展」を行う予定です。桃園市は台湾で5番目に大きい市で、人口は222万人を数えます。桃園市にある市轄区の一つである大溪区、ここと藤野には共通している点が多くありません。大きな都市まで1時間ちょっとで行ける立地であり、かつ自然が豊かであること、そして多くのアーティストが居住し、活動拠点としていることです。このようなこともあって、大溪区に住む日本人が藤野と大溪との間で芸術を通じた交流ができないかと模索、5年前には藤野で開催された「藤野まるまるマルシェ」に大溪の6～7人のアーティストが出展し、藤野のアート拠点数ヶ所を見学しました。その後、藤野から個人的に大溪を訪れる人もあり、交流の可能性を探っていましたが、コロナ禍で中断、この度ようやく相互交流の第1歩を踏み出すことになりました。

「アートの棲むまち」大溪と藤野の交流、その芽が「ふじのね」に生まれる、なんとも夢のある話ではありませんか。皆さん、ぜひその芽を見にいらっしや、芽を育てていただだけませんか。



「大溪と藤野の皆さんとの交流」

事務局より

新型コロナウイルス感染の収束が見通せない状況ですが、昨年の秋頃から各種イベントが再開されつつあります。10月の「ぐるっとお散歩篠原展」、「そらにわ2022」、11月の「ふじのサニーサイドウォーク2022」、「藤野まるまるマルシェ2022」、「秋の牧郷収穫祭」などです。今後もイベントが復活し、ますます藤野が楽しいまちになることを期待しています。